

佐原の町並み

かわら版

第 2 7 号

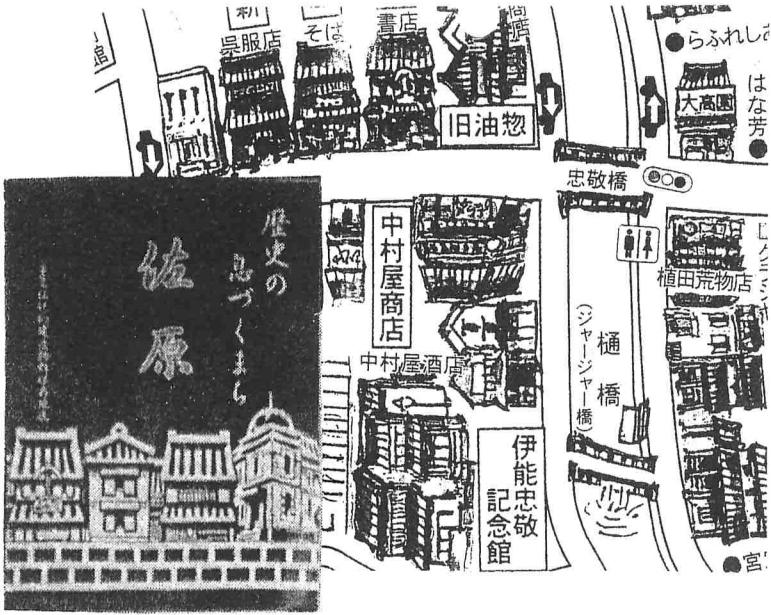
平成12年 7月

発行 小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

半纏・新ガイドマップ完成

佐原の町の良さを知ってもらい、活気あるまちづくりを目指した官民一体の取組みが効果を上げています。今年度は、半纏と新しいガイドマップを作製し、ますますポランテリア活動が充実してきています。

半纏の絵柄や色、マップの写真等に、佐原の町並みをイメージできるデザインをと、作製委員会で何回も検討を重ね、あやめ祭り時期を前に、半纏とガイドマップが完成しました。



半纏の地色は江戸時代一番粋な色と云われた「孔雀青」(エメラルドグリーン系)。文字や絵柄は、柿茶に白抜きというモダンな配色で、背中に忠敬翁と日本地図、裾

には町並みをデザインしました。三菱館内での接待や町並み案内に使用していますが、観光客の皆さんにとっても好評



ガイドマップも内容を一新、茄子紺の地色に半纏と同じ町並みの絵柄を白抜きにしたシンプルですが斬新なものです。写真も佐原の雰囲気を感じられるものを多く使用。中央のマップは文化財建物を含む町並みの一軒一軒をイラストした温かみあるものです。さらに文字も大きくして、読みやすく、見る人にわかりやすく、歩きやすい地図ができました。

十二年度 定期総会開催



総会での審議の様子

五月十七日、宮定に於て、「小野川と佐原の町並みを考える会」の総会を開催。

総会では、昨年度の事業報告や本年度の事業計画等を審議。特に、本年度は、「考える会」が結成十周年を迎えることから、記念事業として、これまでの活動状況の集大成としての冊子を発行など、積極的な意見が出されました。

また、新しく作製された半纏の御披露目。青年会議所から「小江



半てんの着初めして
がちりりと手を組む3トップ

戸佐原・映像でつづる文化と歴史」のイベント説明がありました。

総会後の懇親会では、鈴木市長、谷田川県議、菅井商工会議所会頭、行木観光協会副会長、吉田案内ボランティア会長、高橋青年会議所副理事長、宗像会議所青年部会長をお招きし、和気あいあいの中にも活発な意見が出されました。

六月三日、正上穀倉において、都市環境デザイン会議関東ブロックの視察研修会が開催された。

デザイン会議会員、学生のほか、佐原の関係者等約四十名が参加し、町並み・まちづくりに関する討論が行われた。

蔵づくりの町の再生と都市環境デザインフォーラム開催

意義や後継者問題について。近田氏は、照明デザイナーの立場から、川越の町の夜景についてスライドで解説。

コーディネーターとして

(株)都市環境研究所の土田旭氏。パネラーには、菅井氏(市役所)、高橋氏(考える会)、吉田氏(案内ボランティアの会)、近田氏(近田玲子デザイン事務所)。この五名から、それぞれ報告がなされました。土田氏の挨拶の後、菅井氏から町並み保存とまちづくりの状況。高橋氏は、官民一体となつて進めてきた活動の歴史や今後の問題について。吉田氏から、佐原の良さを伝えたいという町並み案内の意義や後継者問題について。近田氏は、照明デザイナーの立場から、川越の町の夜景についてスライドで解説。

夜景(照明)は観光客のためでなく、「住む人に優しいこと。」が基本であるという言葉が印象的であった。佐原の感想として、町の中に川があることは大変恵まれており、ジャージャー橋は特色ある良い橋である。他の橋もデザインを考えてはという話であった。その後のディスカッションでは、主に次の事項について活発な意見が交換された。



活動報告するパネラーの方々

- 一 若い人は佐原の町をどのように考えているのか。
- 二 文化財の建物所有者の考え方や問題点。
- 三 伝建地区がどのようにに経済的発展に結びついているのか。
- 四 小野川を生かした舟運。
- 五 「小江戸」の意義。